



平成28年1月12日発行 (毎月1回10日発行)  
**函館商工会議所報**

2016

1

No.390

# ともし



## CONTENTS

### 新春特集

### 平成28年 新春座談会

新春紙上名刺交換 .....	P 8
会員 Now .....	P14
新幹線情報 .....	P17



JR北海道H5系

旅が、仕事が、暮らしが、街が変わる。

**2016年3月26日 新函館北斗開業**

自衛隊函館地方協力本部

# 迎春

新年明けましておめでとうございます。  
本年も昨年同様、自衛隊函館地方協力本部に対し  
ご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。



## ● 退職自衛官への求人情報お待ちしております！

定年制退職自衛官求人情報募集中！詳しくはホームページをご確認下さい。

退職自衛官に関するお問い合わせ先は、函館地方協力本部道南地域援護センターまで

## ● 退職自衛官のキャリアをあなたの職場に！

### 「28年度 合同企業説明会」

開催日：平成28年7月予定（市内ホテル）

自衛隊函館地方協力本部 道南地域援護センター

函館市広野町6-18 (0138) 32-0488 (FAX兼)



## ● きみの力を生かせる仕事がきっとみつかる！

平和を仕事にする 自衛官募集中



### ● 陸上自衛官候補生 ●

試験日 1月24（日） 25日（月）

自衛隊函館地方協力本部 募集課

0138-53-6241

# と も え

1月号

(通巻390号)

旧年中は格別のお引立てを賜り  
厚く御礼申しあげます。  
本年も皆様にとって、良い年で  
ありますよう心からお祈り申しあげます。

## 謹賀新年



### ■今月の表紙

函館ハリストス正教会



写真提供：小松英海氏

### CONTENTS

2 年頭所感 函館商工会議所 会頭 松本 榮一

4 新春特集  
平成28年 新春座談会

8 新春紙上名刺交換

14 会員 Now  
●人が集い賑わう憩いの場所：田家の湯

15 商工会議所活用レシピ  
●優良商工従業員表彰式を利用して：函港作業㈱

16 確定申告会場開設期間等のお知らせ(函館税務署)  
言葉の力

17 新幹線情報

18 会議所のうごき

- 第2回臨時議員総会開催
- タイ観光客誘致訪問団
- 北海道新幹線開業に向けた動き
- 函館港利用促進協議会トップセールス
- 函館・北斗・七飯経済団体協議会
- ひろさきナイト
- 津軽海峡ブランド博
- 函館マラソン大会協賛会開催
- 当所創立120周年・函館大学開学50周年記念講演会
- おもてなし英会話講座
- 第24回優良生徒表彰式・2015年全国そろばんコンクール
- 青年部
- 女性会
- 銭亀沢地区女性部
- 議員の異動
- 今後のうごき

24 第57回優良商工従業員表彰式

26 中小企業相談所だより

- マル経融資
- 北海道最低賃金
- インターネットから始める海外市場開拓セミナー
- 個人住民税(道・市民税)は特別徴収で納めましょう
- 個別専門相談日程

28 全面広告

30 青森商工会議所会員事業所のご紹介

- (有)高坂鉄工所

### 広告掲載企業

自衛隊函館地方協力本部	表紙裏
ほくでん	裏表紙裏
(独)中小企業基盤整備機構北海道本部	裏表紙
函館青色申告会	P28
(株)JTB北海道函館支店	P29
(独)中小企業基盤整備機構	段下
(株)花びしホテル	段下
(業)英知国際特許事務所	段下
龍文堂印刷(株)	段下
モチベーション・アップ(株)	折込
函館市市民部市民・男女共同参画課	折込
医療法人 新産健会 L S I 札幌クリニック	折込

# 2016 年頭所感



函館商工会議所 会頭

松本 榮一

新年あけましておめでとうございます。

平成28年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

函館商工会議所は、昨年創立120周年の節目を迎え、記念式典・講演会等を無事盛会里に開催することができました。あらためまして、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚く感謝を申し上げます。

さて、地域の経済状況は、一昨年の消費増税の影響が徐々に和らいできたほか、雇用・所得環境にも改善傾向が見られ、また、プレミアム商品券など政策面での押し上げ効果が期待される中、個人消費が一部ではありますが持ち直し傾向となっています。

しかし、国内実質GDPが2四半期連続でマイナス成長となり、また今後予定されている再度の消費増税や、世界経済の中で不安定要素も散見されることから、企業の投資マインドにも積極性を欠いており、先行きについては不透明な状況にあります。

特に北海道、当地域においては、人口減少に伴う地域経済の衰退が危惧されており、地域の内発的意思と自らの努力で、持続的な発展の道を切り開いていかなければなりません。

当地域主力産業の観光関連では、平成27年度の上期観光客入込客数の推計値が321万人で前年

度より1.5%の増加となりました。

国内の観光客は北陸新幹線開業もあって北陸や西日本に向かう傾向があった中、函館アリーナやフットボールパークの供用が開始されたことによる好影響に加え、引き続き外国人観光客が好調であったことによるものです。

現在函館空港の国際定期便は、台湾台北便が週8往復、中国天津便・北京便がそれぞれ週2往復、中国杭州からも週2往復が就航し、さらにもう1社が杭州便就航を予定しており、国際航空路線の充実・安定化に向けた地域挙げてのプロモーション活動が実を結び、間近に迫った北海道新幹線開業と共に函館観光に追い風となっています。

一方、特に外国人観光客に対しての言葉の問題や、無料Wi-Fiスポットの拡充などが懸案であり、ホスピタリティ面の充実さらに力を注いでいかななくてはなりません。

また、繁忙期における宿泊施設不足も懸念される所です。函館市内の宿泊施設については、これまで客室数で9,662室、人数で23,157人と収容能力が公表されておりますが、昨年本所が実態調査を実施したところ、実際にはその8割強程度であることが判っております。宿泊施設については、地域外からの投資の動きも見られるようになってまいりました。

そして、当地域が大きな期待を寄せる北海道

新幹線については、開業日がいよいよ間近に迫り、運行の詳細について具体的に見えてまいりました。

懸案の新幹線青函共用走行区間（青函トンネル内等）の速度制限問題については、本所が積極的に開業時からの高速走行の必要性を訴え、政府与党PTからも東京・新函館北斗間3時間台の列車運行実現についてJR側に申し入れてきたところですが、開業時に最速で4時間2分ということが決定され、残念ながら開業時からの実現が叶わないこととなりました。

また、新幹線の運行本数が東京10往復と東北3往復で、地域の期待よりも少なかった点や、特急料金の設定額に割高感がぬぐえない点、また北関東からの誘客には大変有効であり両地域が強く要望してきた「はやぶさ」の宇都宮駅停車についても開業からの実現は叶わないことになり、北海道新幹線開業に対する地域の盛り上がりにも水を差す要素が多くなったのは残念です。

しかしいずれにしても、開業イベントの準備やプロモーション活動の推進に加え、新幹線開業効果を最大限かつ継続的に活かすための環境整備や諸事業に、地域一体となって取り組んでいくことが重要であります。

一方、北海道新幹線開業をきっかけとして、これまで四半世紀にわたり開催されてきた函館ハーフマラソン大会が、フルマラソン大会との同時開催に拡大して、本年6月26日、新たに「函館マラソン大会」として生まれ変わることになりました。

近年、市民マラソン大会は、健康志向によるランニングブームもあって人気が高く、特に魅力のある観光地のフルマラソン大会においては、国内外のランナーはもとより、その家族などが多く訪れることで、大きな経済効果が期待できるイベントとなっていることから、本所青年部が中心となって尽力してきたことが実を結び、大会の開催

が実現したものです。大会の拡大には資金需要がさらに高まることから、函館マラソン大会協賛会を組織し、経済界として協賛金を募ることで、大会の円滑な運営を支援してまいりたく存じますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

また、北海道新幹線開業に加え、新外環状道路の函館IC・赤川IC間が開通し、5年後の平成32年度には空港IC間が完成予定となっているほか、当地域産業・経済の振興にとって極めて重要な役割を果たす北海道縦貫自動車道「七飯IC－大沼公園IC」間についても実質的に着工されるなど、当地域の交通インフラ整備も、ここに来てようやく進捗してきた、との思いを強くしているところであります。

一方で、こうした高速交通ネットワークの進展は、時間距離の短縮により広域の経済交流が盛んとなり、大きなビジネスチャンスをもたらすと同時に、新たな地域間競争の時代が訪れることにもなります。本所が従前より提唱する南進政策のもと、東北・北関東・首都圏への積極的な事業展開が重要と考えます。

函館が元気で魅力ある街であり続けるためには、成長の源泉である道南全体の中小企業、小規模企業が元気にならなくてはなりません。

本所では、地域社会のニーズに応え、経済活性化のリーダーシップを担うと共に、個々の企業に対しては、資金繰り、経営計画、企業再生などの諸課題に対して、経営指導員を中心に、引き続ききめ細かい支援を行ってまいります。

特に近年、国が強力に推進する小規模事業者向け補助金等の助成制度や、商工会議所が地域の金融機関と連携して意欲ある取り組みを強力に支援する小規模支援法について、効果的な情報提供と活用提案を推進してまいります。

結びに、本年が皆様とご家族にとって実り多く、健康で幸せな一年となりますよう心から祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

# 平成28年 新春座談会

あけましておめでとうございます。本号では、新春企画として、日本銀行函館支店 沼本支店長、北洋銀行青函産業振興室 大内室長代理、北海道新聞社函館報道部 村田編集委員の3名にお集まりいただき、「市外から移住して感じた函館の印象」、「経済人としての北海道新幹線開業に対する思い」、「女性が活躍できる社会の在り方」をテーマに、正副会頭と当市の未来像等について語っていただきました。

- 函館商工会議所 会 頭 松本 榮一
- 函館商工会議所 副 会 頭 久保 俊幸
- 函館商工会議所 専務理事 酒井 康次
- 日本銀行函館支店長 沼本 奈美 さん
- 北洋銀行 地域産業支援部  
青函産業振興室（函館中央支店駐在）  
室長代理 大内さおり さん
- 北海道新聞社  
函館報道部編集委員 村田 泉 さん



## 【松本会頭】

お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。職種は違いますが、それぞれ第一線で活躍されている皆様が一堂に会す機会もなかなかございませんので、本日は、函館に土着している私たちには気付かない、函館の街の可能性や経済の問題点、北海道新幹線開業に向けた当市の取り組みに対する課題等について、忌憚のないご指摘やアドバイスをいただきたいと思えます。

## 【酒井専務理事】

それでは、一つ目のテーマ「市外から移住して感じた函館の印象」ということで、市外から赴任され、実際に函館に住んでみて感じたこと等の率直な印象をお聞かせ下さい。

## 【沼本支店長】

函館の印象を一言で表すと、この街は、文化や歴史が豊かで、気品の薫る街だと思います。市内の至る所に存在するモノ・場所・事柄の一つ一つが歴史とストーリーを持っていて、実際に街を歩き、それらのストーリーに

触れるたびに奥深さや面白さを感じています。

また、この街の色々な人との交流の中で、固い絆や網の目のように張り巡らされた人の繋がりを感じます。

## 【村田編集委員】

赴任前から函館での史跡巡り等を楽しみにしていました。実際に来てみて、1日では廻りきれないくらいの数の多さに驚きました。札幌や小樽、海外等の様々な場所で夜景を見ましたが、海の上に宝石を散りばめたような函館の夜景の美しさは比類がないと思えます。

また、ボランティアや趣味、歴史学習、スポーツ等の市民活動が盛んな街だという印象があります。最近、同僚が書いた記事の中で、洋菓子協会の方が児童施設に向き、入所している子供たちにケーキ作りを教えたという話が印象に残っています。様々な場所で地道に活動する市民が函館の基盤を作っているのだと感じることが多く、幕末・明治から高田屋嘉兵衛等、民間の経済人、市民が中心となり、水路や公共施設等、街のインフラや諸制度を築いてきた函館の歴史的風土とも関係しているように思います。

### 【大内室長代理】

函館に赴任する前は、食を通じた地域振興の担当をしていたこともあり、この地域の活性化にいつか携わりたいと思っていました。函館をはじめとする道南の豊かな自然や文化は、北海道を代表する魅力が凝縮されていると思います。花を愛でながら生活する市民の暮らしぶりを目にする事が多いように思いますが、そういった街の雰囲気は函館に初めて訪れた人でもほっとした気持ちにさせる印象を与えていると思います。この地域に根付いている人の温かさや繋がりを大切に作る姿勢からは、縄文文化の精神性が現代に受け継がれているのではという感覚を覚えます。

### 【松本会頭】

函館の良い面をたくさんお話いただき、気恥ずかしいところでもあります。この街の人の温もりや歴史による街の造形等に対し、それぞれ良い印象を抱いていただき、ほっとした気持ちになっております。

函館は北海道で最初に栄えた街である一方、長い間、閉鎖的な社会の中で物事が進み、北洋漁業と共に衰退期を迎えた経緯があり、現在においても産業の縮小や人口流失等の問題を抱える当市の現状に強い危機感を覚えています。本日は、北海道新幹線開業を機とした東北地方との連携や街づくりの推進、仕事の拡大等の部分についてお話しを伺いたいと思います。

### 【久保副会頭】

初めて函館に来た方やこれから帰る方が函館の印象を話していると、異国情緒があり、穏やかで、住みやすい街だなと褒めていただくことが多いと思います。そういった印象を多くの方が抱いている一方で、人口減少と共に経済の弱体化が進んでいますが、その原因や解決策を日々考えています。本日は、この現状から脱却するためのヒントやアイデアをいただきたいと思います。

### 【酒井専務理事】

それでは、函館の好きな所や改善点についてお願いいたします。

### 【村田編集委員】

好きな所は言い尽くせないくらい沢山あります。夏の港まつりや西部地区のバル街等、市民と観光客が一緒になって楽しめるイベントがあることや、伝統的な建造物が建ち並び、数多くのお洒落なカフェやレストランが点在していること、陸海空の交通アクセスが良く、東京や青森が時間的に近いこと等が思い浮かびます。

海外に行った時に、住民とのちょっとしたやりとりで「感じのいい人だな、感じのいい街だな」という印象を受けることがあります。男女問わず人当たりが優しい函館の市民にもそういった「感じの良さ」があります。ただ、一方で外国人観光客がいても、うつむいて通り過ぎたりする人見知りな部分を感じます。頑張って話しかけたり、笑顔を向ける等のちょっとしたアクションを起こすことで、金沢や東京とは違う、函館人ならではのおもてなしができると思います。

### 【大内室長代理】

函館は、数多くの映画のロケ地として使われていることでも証明されているように、絵になる街だと思います。特に西部地区が好きで、お気に入りの坂がいくつかあります。よく街歩きをしますが、季節や時間によって目に映る景色が違っているので、毎回新たな発見があります。何気ない日常の中に楽しみを見つけることで、非日常を感じ

ることができるのが好きです。また、長い間住んでいる方々にとっては代わり映えない風景に思えるかもしれませんが、函館に点在する美しい景観の素晴らしさに改めて目を向けてほしいと思います。

### 【沼本支店長】

好きなどころの一つ目は、和洋折衷の歴史的建造物が随所にあり、美しい景色が多いことです。季節や時間帯によって見え方が変わりますし、毎回新たな発見がある街歩きはとても楽しいです。二つ目は、農産物や海産物等の素材そのものだけでなく、それらを料理するレストランや飲食店の水準も高く、全体的に食べ物おいしいことです。これら二つは、観光・ビジネスの観点から見て、非常に大きな資源だと思います。先程、村田さん、大内さんがおっしゃったように、外国人観光客に対する人見知りや地元の良さに気付いていないところ等の意識的な部分が変われば、函館が誇るこの大きな資源を活用する歯車が強く動いていくと思います。

### 【松本会頭】

地元の私たちにとっては不便に感じますが、“坂の街”であることも立派な観光資源になると改めて思いました。北海道の玄関口として発展した函館は坂が多く、かつて豪商と呼ばれる人たちは高台に住み自分の帆船を確認していたそうです。

皆様をご指摘された通り、函館は、観光企画の面において“観る、歩く、食べる”という部分で恵まれています。私には海外観光客誘致でタイや中国等へ行き、表敬訪問を行うことがあります。その際は、相手の目をしっかりと見て、自信を持って熱心に接することを心掛けています。そうすることで、こちらが伝えたいことを相手は好感を持って理解してくれます。これは、外国人観光客にどうやって“人の温もり”を感じてもらおうかという点でも同じことが言えると思います。

私は海外観光客誘致でタイや中国等へ行き、表敬訪問を行うことがあります。その際は、相手の目をしっかりと見て、自信を持って熱心に接することを心掛けています。そうすることで、こちらが伝えたいことを相手は好感を持って理解してくれます。これは、外国人観光客にどうやって“人の温もり”を感じてもらおうかという点でも同じことが言えると思います。

### 【久保副会頭】

急な坂が多い事で良く知られるサンフランシスコですが、多くの住民が生活を楽しんでいるように見えます。一方、函館に住んでいる私たちの多くは、坂が多いことに上り下りが大変等、いい印象を持っていません。では、一体何が違うのかなと考えたら、日本人はマイナスの面があれば、メリットがあっても、マイナス面の方ばかり見てしまうところがあると思います。こういうハンデも見方を変えると景色が良い、津波等の災害に強い等のプラスの面も必ず出てくるので、そういうことをPRする必要がありますし、私たちも函館の街の美しい景観を誇りに思っていますので、そういう精神的な面も経済に結び付けていければと思います。



函館の街の美しい景観を経済に結び付けていければと思います

### 【酒井専務理事】

それでは、二つ目のテーマ「**経済人としての北海道新幹線開業に対する思い**」ということで、はじめに、新幹線開業前の函館の現状について、会頭よりお願いします。

### 【松本会頭】

当市においては経済の衰退と人口流失が大きな問題になっています。北洋漁業の廃止により、当時盛んだった造船業や漁網等の漁具関係製造業を中心に多くの産業が衰退した背景もありますし、人口増加のピークだった昭和57年頃、道南地域全体に57万人くらいの人口がいましたが、現在はその約20%を失い、46万人くらいまで減少しています。観光関係のアンケートの住んでみたい街ランキングで上位にある函館市が北海道での人口減少率が一位というのは、憂慮すべき問題です。

他の側面から経済の衰退や人口流失の原因を見ると、やはり企業の誘致と二次産業の鉱工業にあると思います。二次産業の食品加工業については、函館は日本を代表する地域の一つと言えますが、鉱工業については、地形的な問題で発展は難しい状況です。また、大手企業へ生産工場の誘致活動を行ってはいますが、土地や水をはじめ、安価で良質な労働力の有無、製品の輸送時間とそのコスト等の様々な条件が必要なことや企業側の事情等が原因で実現されないのが現状です。

昭和63年の青函トンネルの開通により、青函連絡船で4時間かかっていた函館・青森間の移動が2時間に短縮され、当時は、本州との交流人口の拡大やその経済効果を期待していたものですが、2時間という移動時間はあまりにも長く、思うほど交流人口は増加しませんでした。更に、青函連絡船の廃止により、貨物基地がほとんどなくなり、青函局の職員もいなくなりました。



このような背景を持つ当市ですが、北海道新幹線開業を機に、再び北海道の玄関口になれるという強い希望をもっております。その希望を叶える為には、約900万人の人口がある東北や約1,400万人の人口がある北関東とどのように一体感を持って繋がり、連携することができるかが全てだと思っています。

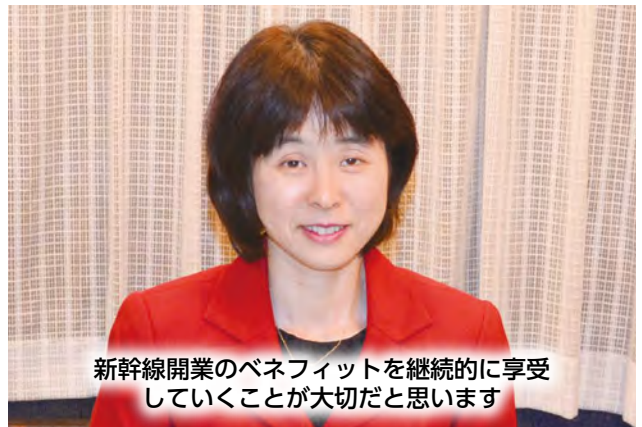
### 【酒井専務理事】

それでは、沼本支店長に新幹線開業前の現状と開業後の展望や希望についてのお話をお願いします。

### 【沼本支店長】

一昨年6月に着任した頃、新幹線開業に関する活動は、とても静かなものだったと思います。今年度に入ってか

らは、会議所青年部はやぶさPR隊による目に見える形での周知活動をはじめ、市や関係団体の勢いのある活動により、関係者だけでなく市民のレベルでも機運の高まりを感じています。また、新幹線デザインのラッピングの商品や新幹線マークの付いた名刺、新幹線カラーの路面電車、タクシーやバス等、街全体で、この新幹線開業を盛り上げようという気持ちが集まり、力になってきているという風に見えています。



新幹線は、安定性があり、大量に人やモノを輸送できますし、予約も必要無く、思い立った時にいつでも乗れます。そういう意味では、北海道と本州が陸続きになるかのように、精神的距離が縮まると思います。観光面での交流人口の増加はもちろんですが、企業間の取引も容易になり、販路や取引を拡大しようという気持ちに繋がるのではないのでしょうか。金融機関で行っている企業間のマッチング事業等も、ビジネスの方面から地域活性化を後押しすると思います。また、青森とは移動時間が1時間になることで、通勤、通学、通院等、人の動きが活発になる条件が整ってきます。このベネフィットを、開業時だけでなく継続的に享受していくことが大切ですし、そのためには、道南地域一帯での連携を高め、道南地域全体を強くすることに加え、東北や北関東との広域的な連携を深めていくことが大切だと考えています。

### 【酒井専務理事】

ありがとうございました。大内室長代理が所属する青函産業振興室では、青森との取引拡大を希望する道内の企業・団体と青森側の企業・団体のビジネスマッチング等を、すでに行っていると思いますが、新幹線開業後、更に期待の強まる広域連携の強化等についてのお話をお願いします。

### 【大内室長代理】

平成24年12月に北洋銀行と青森銀行との地域経済活性化に関する協定締結をきっかけに、青森の企業、自治体、関係機関等との直接的な繋がりができました。青函圏「食と観光」活性化連携では、青森銀行やアークグループと連携し、青函の特産品を提供しました。マスコミに大きく取り上げていただいた結果、各所で同様の取り組みが広がり、経済交流促進に繋がっていることを実感しています。

広域連携を呼び掛けるだけでは物事が進みません。互いに何ができるか知恵を出し合い、具体的な事業を共に動かそうという前向きなメンバーを探し当てることが大切だと考えています。この道南地域は、そういう思いを持った方々に恵まれています。





新幹線開業は、各セクターとの連携を深め、新たな枠組みを構築するチャンスだと思います

今後は、新幹線開業と地域活性化を結びつけるべく各セクターとの連携を深め、繋ぎ、動かし、継続させていく仕組みづくりに積極的に関わっていきたくと考えています。

#### 【酒井専務理事】

ありがとうございました。新幹線が開業されると首都圏や東北地方から多くの人が当市を訪れることになりませんが、村田編集委員はどのように見えていますか。

#### 【村田編集委員】

新幹線開業を直前に控え、函館でも開業ムードがじわじわと高まってきていると感じます。航空路線と違って一度既成された路線は簡単にはなくなりませんし、大量輸送ができる新幹線が開業する意義は大変大きいと思います。一方で、函館をはじめ、各地で同じ様なイベントが同時開催されるというようなことも散見されています。良く使われる経済用語で“合成の誤謬（ごびゅう）”という言葉があります。各ポジションの人たちが最善を尽くして頑張っているにもかかわらず、相対的にうまくいかないようなことが起きるという意味です。そういうところが函館にも若干見られますので、新幹線開業という大きな節目を迎え、大同団結の発想が必要なのかなと思います。

また、観光振興と雇用創出のため、開業後も函館の情報を継続して発信することや、既存の観光資源の再評価と活用が重要だと思います。

現在、IT企業等は通信インフラ整備があれば全国各地でも仕事ができるので、魅力的な地域で仕事をしたいという若者も多いです。鎌倉等、道外では古民家をオフィスにしているベンチャー企業も増えています。函館は伝統的建造物が多いので、多くの若者を引き付ける要素を持っていると思います。このような形で、小さな企業が沢山集まれば、立派な雇用創出になるのではないのでしょうか。



函館に行きたいと思うようなストーリーを創り出すことも大切だと思います

本州の友人から「函館ってどういうところなの？」と聞かれることがあります。そういう友人に「うちの近くに、土方歳三が使っていた料理店の跡があるよ」「函館で食べるイカは透明で、東京の白いイカとは似て非なるものだよ」等と、具体的な情報やストーリーで説明すると、興味を持って実際に遊びに来てくれます。道内外からの観光客が「一度は函館に行かなければ」と思うようなストーリーを創り出すことも大切なのではないのでしょうか。

#### 【酒井専務理事】

3つ目のテーマの「女性が活躍できる社会の在り方」や今後の展望等についてお話をお願いします。

#### 【村田編集委員】

函館支社は報道部の記者14人のうち半数の7人が女性で、警察担当もこの数年は女性2人体制です。意図的に女性を配置しているのではなく、年次やキャリアを考慮したものです。

自分自身、仕事をする上で、女性だからと考えたことはあまりありませんが、新聞社も以前、女性記者は転勤や夜勤がなく、担当も生活部等に限られていました。女性の仕事の間を広げようと、男女を問わず先輩たちが改革を続けてきた結果、多くの女性記者が働く現在の姿に繋がっているのだと思います。

女性管理職を増やしていくことは大事ですが、企業イメージ等を意識した形式的なものでは意味がないと思います。計画的に人材育成し、女性が管理職として力を発揮できるようにするためにはどのような環境整備が必要なのか、それぞれの企業、職種で具体的に考えることが大事だと思います。

新聞記者の立場としては、将来的に女性の活躍がニュースにならない時代が来ることを期待しています。

#### 【沼本支店長】

職場環境や上司や同僚、部下等の人間関係に恵まれ、今まで、あまり自分が女性であるといったことを意識することなくやってこれたことはとても幸せだなと思います。仕事に関しては、自然体で、自分に与えられた仕事に一生懸命取り組むことが全てだと思っています。

また、性別に限らず、様々なバックグラウンドや事情を持つ人が一緒に仕事をすることによって生まれるエネルギーもあると思います。それを日本の経済に活用する観点からも、職場お互いを尊重し合う気持ちがあるということが一番大切だと思います。

#### 【大内室長代理】

これまでを振り返ると、男性が圧倒的に多い職場環境でした。そのような中で、一人の人間としてしっかりと仕事を任せてもらえるようになりたい、仕事を楽しまたいと強く考え働いてきたように思います。現在は社外の方々と共に仕事をする事が多く、働く環境も事業ごとに変化します。沼本支店長もおっしゃっていたように、バックグラウンドが違う人達と尊重し合うことが大切であると日々実感しています。多様性を受け入れるようになるためには、学校や職場での教育が欠かせないと思います。これからの地域を支えていく人材づくりにとっても、小さな頃からの教育が重要であると考えています。

#### 【酒井専務理事】

本日は、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。今後も函館の地域経済の活性化という共通の目標に向かって、それぞれの立場で尽力し、北海道新幹線開業を迎える本年が、当市の地域経済とお集まりの皆様にとって更なる飛躍の年になることを祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。